

南丹市子どもの未来応援プラン ～子どもの貧困対策推進計画～ の進捗状況について

基本理念

すべての子ども達が、その生まれ育った環境に左右されず、自分自身の生きる力を高め、未来を切り拓き夢をもって成長していける社会の実現を目指します。

■基本目標 1

子どもの健やかな育ちと安心して過ごせる環境の支援

【新規事業】

事業・取組	令和2年度のうごき	令和3年度進捗状況・今後の予定
第三の居場所 開設	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に南丹市子ども家庭サポートセンター「Ruri」を開設。 ・「Ruri」では、子ども達が居心地よく感じ、安心して過ごせる場づくりを大切に、次の活動へのやる気に繋がる土台の部分を担当することを役割として運営している。 ・「サポート教室」の利用について、利用児童検討会議を3回開催し4家庭5人の利用が可能となった。 ・「サポート教室」の利用可能となった家庭へアプローチを行い、そのうち3人が利用、1人は見学に来所した。 ・関係団体、NPOなどに拠点見学会を案内し、個別の懇談を実施した。 ・「Ruri」の周知や利用に繋げるための催し（こども食堂クリスマス）を、NPOと共催で実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携し、「Ruri」の利用を必要とする子ども達が繋がり、安心して過ごせる居場所の提供に努めている。 ・今年度、「サポート教室」の利用児童検討会議を1回開催し、現在5家庭6人の利用が可能となっている。 ・日常的な体験（身の回りの片付けや、調理、菜園活動など）に加え、豊かな経験と楽しい気づきが得られるよう野外体験活動を計画している。 ・R3年7月16日、子どもの居場所や子ども食堂を実施しているNPOや団体、社会福祉協議会と「意見交換会」を実施。今年度は、各団体が実施する子ども食堂を、各団体1回ずつ開催し、「Ruri」の周知をしていく。
食事の提供支援 についての研究	<ul style="list-style-type: none"> ・企業から届いた食品の配布について社会福祉協議会と連携し、こども食堂などの活動団体を紹介した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年7月実施した「意見交換会」にて情報共有を行った。今後も継続的に連携を行い、支援のあり方について検討していく。 ◎今年度、社会福祉協議会では「食からつながるプロジェクト@なんたん」の実施を検討されている。

学習サポーターの登録・派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な検討に至らなかった。 ・社会福祉協議会との懇談の中で、コロナの影響でアルバイトがない学生がいるので、学習支援の仕事があれば繋げるとの話があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生サポーターの利用について、関係団体等と連携し、まずは「Ruri」で活動ができないか検討していく。
進学に向けた支援情報の周知の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な検討に至らなかった。 ・学校への聴取の中で、支援制度が必要と思われる家庭には、進路相談時に、京都府の支援制度一覧やパンフレットで説明されているとのこと。 ・学校への聴取の中で、コロナの影響による進路変更の相談はなかったとのこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達にもわかりやすい「支援制度のてびき」の作成について、学校や関係機関と検討を行う。
子ども達への情報発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な検討に至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの活用の有効性など発信の方法について、学校や関係機関と検討を行う。

■基本目標 2

生活基盤の安定と経済的支援

事業・取組	令和2年度のごき	令和3年度進捗状況・今後の予定
モノ支援	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校へリユース事業の実施について調査を行い、実施校の事例を基にした、「制服等リユース事業促進事例」を作成した。 <p>◇市内実施校 小学校1校 中学校2校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「制服等リユース事業促進事例」の活用を検討する。

■基本目標 3

社会全体での気づきの醸成と支援への仕組みづくり

事業・取組	令和2年度のごき	令和3年度進捗状況・今後の予定
庁内連携組織の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応自体が課題であり、各所属での対応となった。 ・コロナ禍での事業の実施状況調査を行い、課題点を探った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のケース支援の中で共通する地域の課題を協議をする場として、計画策定時のプロジェクト参画部署を中心とした連携組織を設置する。

<p>子どもの貧困への理解の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの居場所づくり」をテーマにしたオンライン研修会を、NPO や関係機関に参加いただき実施した。(講師：NPO 法人山科醍醐こどものひろば理事長) ・「Ruri」の施設見学を予約制で実施し、約10 団体約 50 人に見学いただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で子ども達を見守っていく土壌づくりとして、コミュニティの重要性和日常の大切さを描いた映画鑑賞会を「Ruri」を拠点として開催予定。
<p>気づきマニュアルの作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・困難を抱えている子ども達の様子に気づくポイントを事務局で検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内連携組織や支援団体で、気づきポイントを共有する。
<p>地域応援ネットワーク会議 (仮称) の開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要なケースについて個別の連携を行った。 ・コロナ禍における活動状況のアンケートを実施し共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、子どもの居場所や子ども食堂を実施している NPO や団体、社会福祉協議会との「意見交換会」を2 回開催予定。 ・R3 年 7 月 16 日、第 1 回として「意見交換会」を実施し、ネットワークのあり方について協議をした。引き続き、それぞれ団体等の特徴や活動を活かしつつ、市全体の気運の醸成が図れるネットワークづくりに取り組んでいく。
<p>持続可能な支援活動の研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付金担当課と意見交換を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き検討、協議を行う。
<p>情報発信についての研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においてのオンラインの活用が、外出が困難な産後の女性の孤立や不安解消にも有効だと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内会議や「意見交換会」で、意見交換を行う。